

2011年11月

福島県いわき市での  
子育てと避難に関する  
アンケート報告書

(2012年2月)

早稲田大学人間科学学術院

白神晃子

## はじめに

今回の調査は、2011年3月11日に発生した震災とその後の原発事故から約8か月を経て、現在福島で子育てをしているご家庭がおかれている状況について実態を調査し、生活者の視点から何が求められているかを明らかにする目的で実施しました。「安全が守られない中での子育て」と「安心できない中での子育て」は、ともに子どもたちへの影響を与えます。大人たちを不安にさせる環境においては、たとえそれが安全な環境であったとしても、子どもを不安定な状態にする可能性があります。もちろん、大人が不安であることが必ず子どもたちに影響を与えるものではありませんし、多くの親御さんが子どもたちに不安を与えないよう気遣いながら生活されています。一方で、避難するか否かの選択にあたっては、個々の家庭が置かれている状況から複合的に判断せざるを得ず、簡単に決断できるものではありません。しかし福島からの避難をめぐっても多様な意見があり、親御さんはその渦中に置かれています。

こうした不安に対応するためには、今暮らしている場所で安心して子育てができるような環境を整えることと、不安をもたらしうる環境から離れるという意味で、避難を望んでいるご家族の避難を妨げている条件を取り除くこと、の両面からの対策が必要だと考えられます。そのため本調査では、避難の選択やそれに伴う人間関係への影響、放射能が子どもたちに与える影響に対する不安などをお尋ねしました。

調査項目は、福島の各地から県外に避難されている方、福島県内で避難されている方、一時的に避難をして自宅に戻られた方、避難をせずに自宅にとどまった方、そのご家族や支援者などから、さまざまなお話を伺った中で作成しました。ですから、すでに様々なメディアを通して一度は伝えられたことがあり、特に福島で生活している方々の感覚からすれば分かり切っていることかもしれません。しかし、今回の調査結果を改めて現地からの声として示すことで、生活の場である福島の現状に目を向けていただくきっかけにできないかと思っています。それをもとに「現在の線量ならただちに健康への影響は出ない」という安全面での主張とは角度を変えて、「安心や安定した生活が担保されないことによる影響にも着目すべき」という安心を軸にした観点から、子どもたちが育つ環境を考える一助となれば幸いです。

2012年2月

## I 調査概要

時期：2011年11月

対象：調査時点で福島県いわき市に在住し、保育園または幼稚園を利用していた子育て中の367世帯

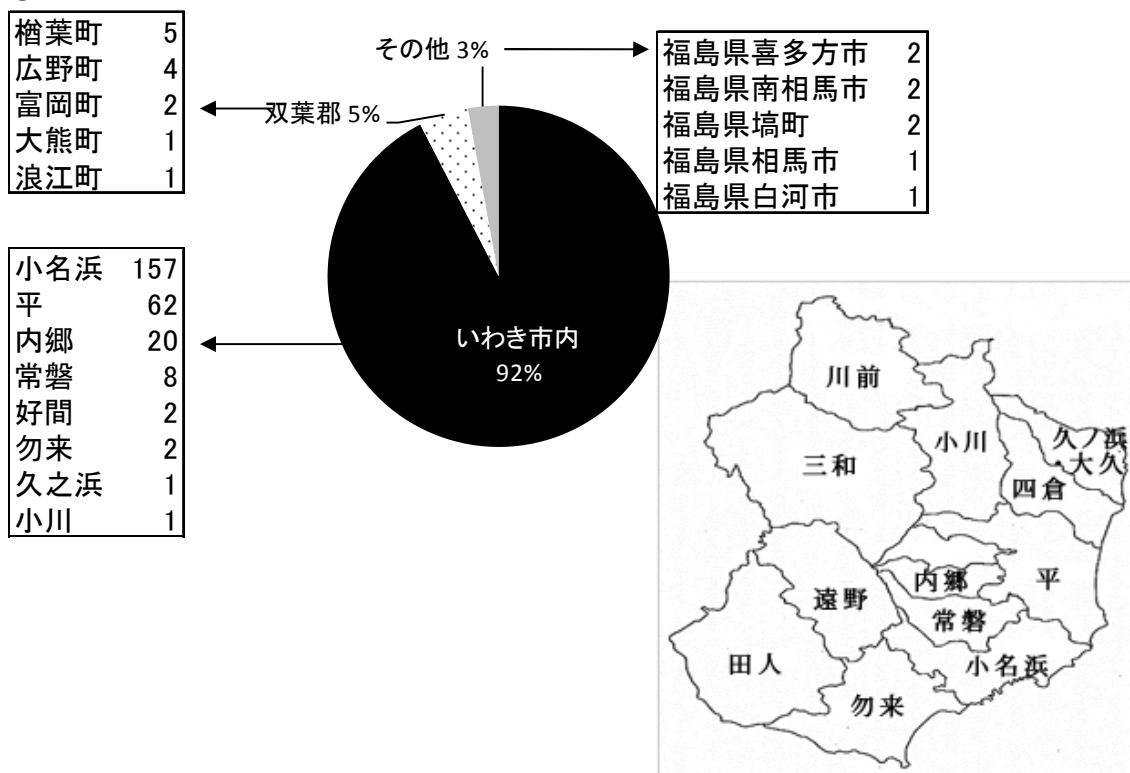
手続き：市内の幼稚園3園，保育園2園にご協力いただき，世帯ごとに調査票を配布。厳封の上，直接郵送または協力園を通じて回収。278世帯から回収を得た（回収率75.7%）

## II 回答者の属性

- ①子どもとの関係：父親12名（4%），母親260名（94%），無効回答6名
- ②各世帯の子ども数：1人31.9%，2人49.3%，3人15.6%，4人2.9%，5人0.4%
- ③回答者全体ののべ子ども数：526人
- ④子どもの年齢・性別：

年齢	0-2	3-5	6-8	9-11	12-14	15-17	18-20	21-	全体	
性別 男	53	121	57	19	13	0	2	0	265	50.4%
性別 女	47	113	53	28	8	3	2	2	256	48.7%
性別 不明	1	2	0	2	0	0	0	0	5	1.0%
全体	101	236	110	49	21	3	4	2	526	
	19.2%	44.9%	20.9%	9.3%	4.0%	0.6%	0.8%	0.4%		100.0%

- ⑤2011年3月11日時点の住所地（内訳の数値は人数）



### Ⅲ 避難するか否かの決定について

避難については、9割が家族で相談する機会を持っていた。双葉郡に住んでいた方のうち62%は家族での相談機会が得られていなかった。

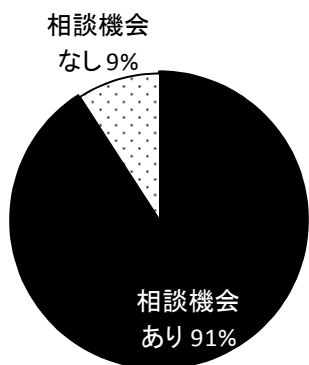
避難するか否かの決断者として挙げられたのは、重複する回答を含めると父親が全体の64%と多く、次いで母親が37%、祖父母が23%であった。後述する避難先から帰宅する際の決断は主に母親の意見であった割合が高く、対照的な結果となっている。

結果、本調査の対象者の8割が一時的に避難をしていた。本調査では現在も市外に避難を続けている家族は対象となっていないことから、乳幼児のいる家庭では相当数が避難を選択したと予測された。

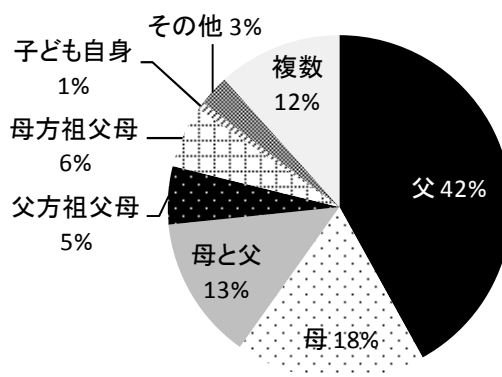
避難をめぐって家族関係に変化が生じた家族は4割で、全体の3割はポジティブな変化を示していた。一方で家族関係が「とても悪化した」との回答が2%あった。避難した世帯で結束が強まったのは31%、悪化したのは9%であり、避難しなかった世帯で結束が強まったのは27%、悪化したのが7%であり、避難の有無と家族関係の変化には関連性は見られなかった。

避難しなかった群では、その理由として仕事上の理由が最も多く、次いで必要と思わなかったことが挙げられていた。避難した群では、放射能への不安を理由に挙げた方が6割であった。回答は単数選択形式であったが、いずれも複数の理由を選択した方が一定の割合でみられ、状況を複合的に判断しながら決断していたと推測された。

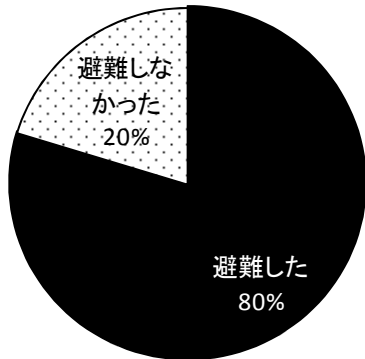
① 避難について家族で相談する機会



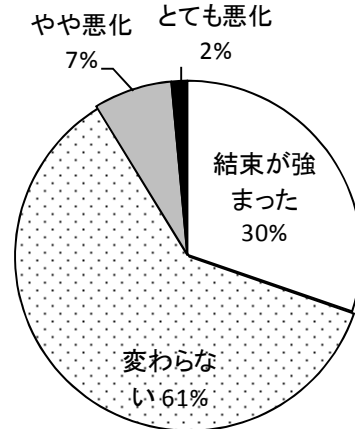
② 避難するか否かの決断は主に誰の意見か



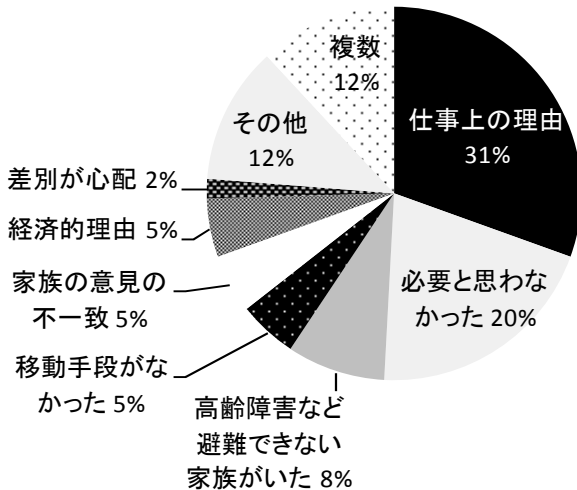
③避難の有無



④避難をめぐって家族関係の変化



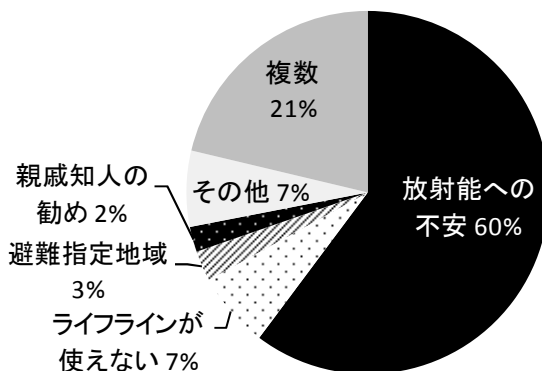
⑤避難しなかった最大の理由



●その他の内容

どこに避難すればいいのかわからなかった。  
 家族の離散を避けるため。  
 避難場所がなかった。  
 実家が警戒区域の為、自宅が避難先になった。  
 避難先での体調変化、食事の面。  
 不安だったが、避難指示がでていなかったので。避難して、子供に不自由な生活をさせる方が不安だったから。環境を変えるのが一番イヤでした。  
 下の子が小さかった。  
 一人で小さい子供2人を連れて、知らない土地に行く決断がつかなかった。

⑥避難を決心した最大の理由



●その他の内容

職場からの避難指示。  
 生活物資が届かない。  
 近隣住民の避難。  
 父親が不在となった。  
 家が壊れた。  
 病院施設の閉鎖。  
 生活が困難だったため。  
 子供の安全のため。  
 親が片親で心配だったから。  
 地震への不安。  
 屋内退避させられていたから。

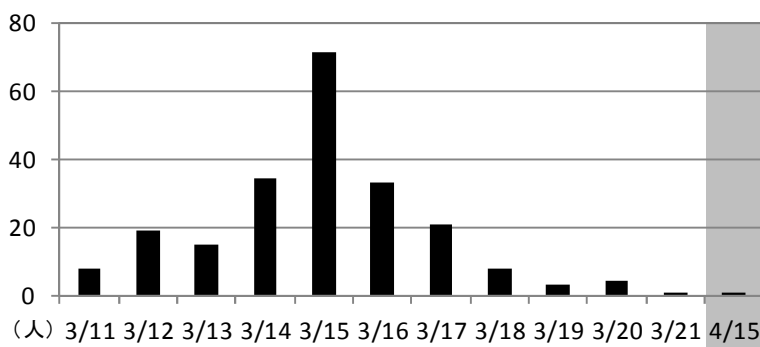
### IV 避難の状況

避難をした日は2011年3月15日が最も多く、学校や園の再開や仕事が理由で4月初めまでに避難先から帰宅した家族が多かった。小学校の入学式始業式が行われた4月6日までに7割が帰宅していた。

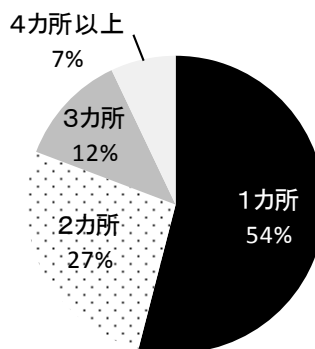
避難先は福島県内と関東近県が多く、祖父母宅と親戚知人宅を合わせると半数を超えていた。避難が長期化し避難先を移動するほど、より遠い土地へ移動し、ホテル旅館や独立住居へ住まいを移していく傾向がみられた。

避難先からの帰宅の決断者として挙げられたのは、重複する回答を含めると母親が全体の60%と多く、次いで父親が38%、祖父母が11%であった。

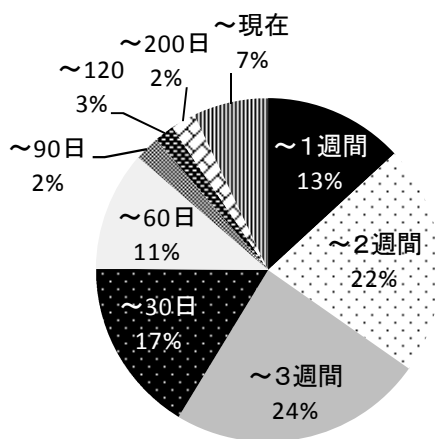
① 避難した日 (人)



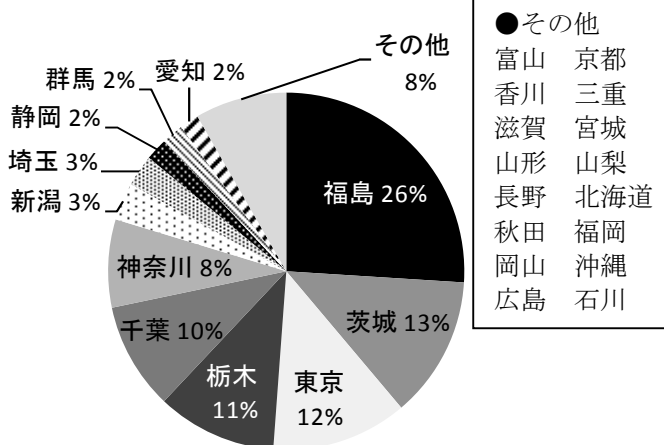
② 避難箇所の総数



③ 避難期間

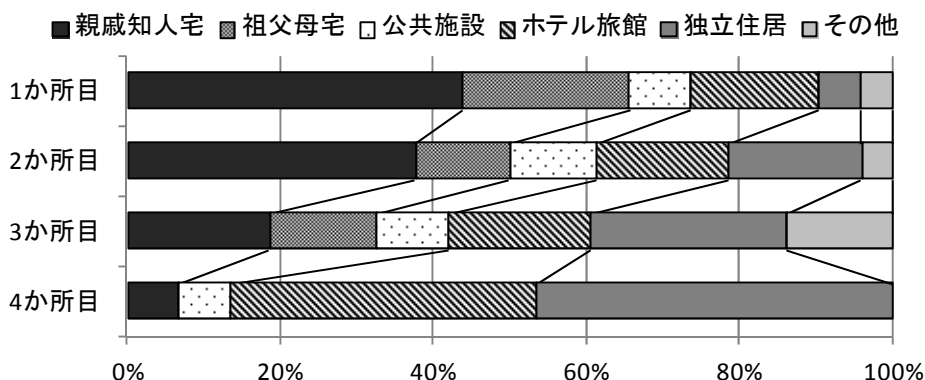


④ 避難先 (県)

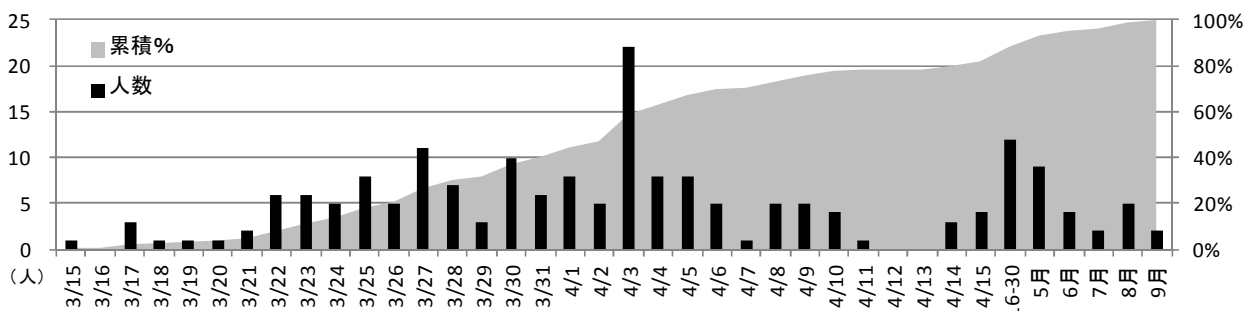


- その他
- 富山
  - 京都
  - 香川
  - 三重
  - 滋賀
  - 宮城
  - 山形
  - 山梨
  - 長野
  - 北海道
  - 秋田
  - 福岡
  - 岡山
  - 沖縄
  - 広島
  - 石川

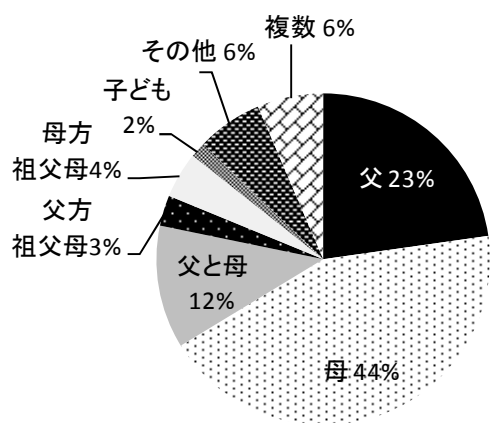
⑤避難先（滞在場所）



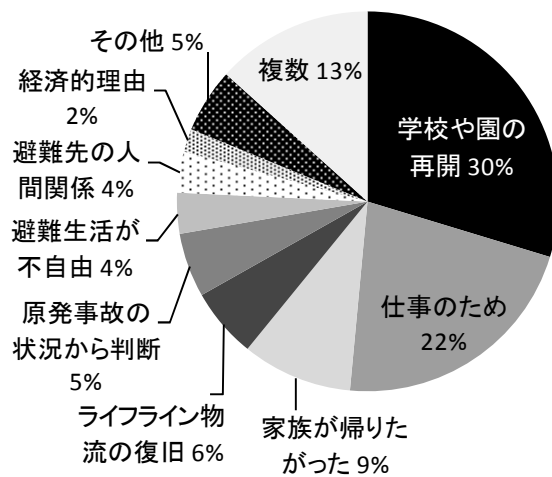
⑥帰宅した日（人、累積%）



⑦帰宅の決断は誰の意見か



⑧帰宅した最大の理由

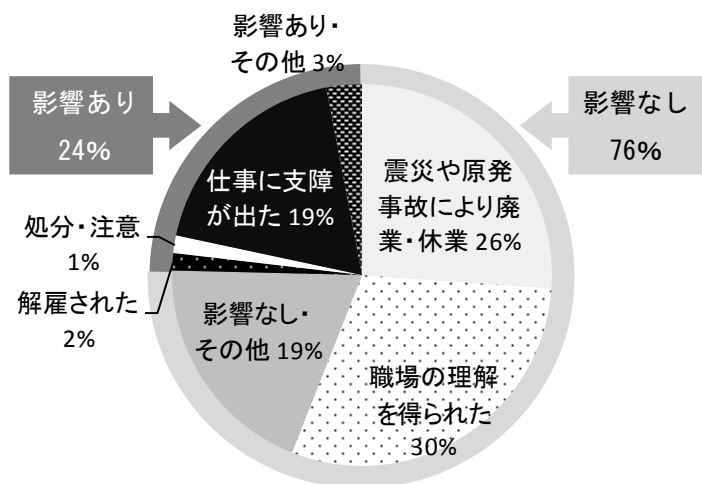


## V 避難による影響

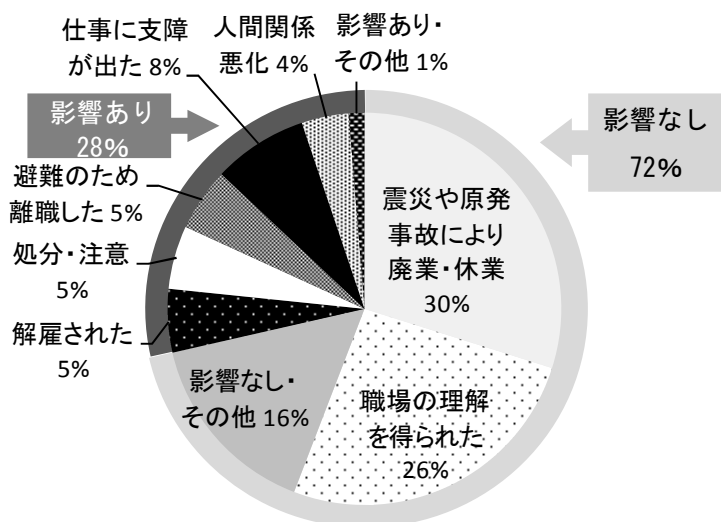
避難によって、父親の仕事に対して影響があったという回答が24%、母親の仕事に対して影響があったという回答が28%見られた。また父親の3%、母親の15%が避難したことにより離職、解雇、処分・注意などを余儀なくされていた。母親で避難により離職、解雇、処分・注意となった者のうち75%が、医療福祉従事者や公務員であった。その他、「影響なし」と回答した方のうち、避難している期間は職場が廃業・休業していた方が一定の割合でみられた。

避難者は地元に残った人々に対して「会いたい」「頑張っている」「力になりたい」と感じており、非避難者は「理解できる」「頑張っている」と感じていた。

### ① 避難による父親の仕事への影響（就労しており避難した135名）

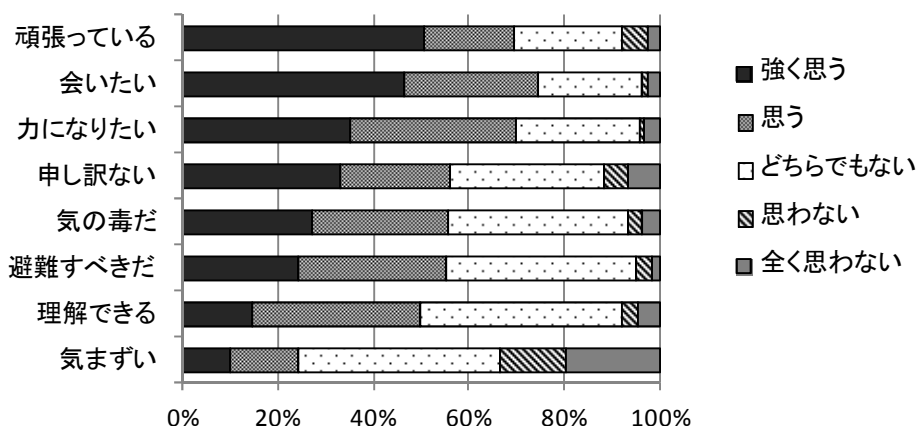


### ② 避難による母親の仕事への影響（就労しており避難した78名）

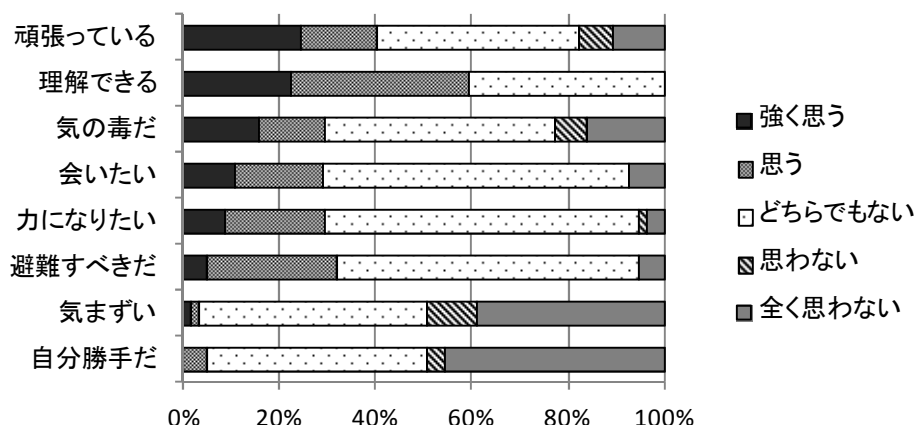




③【避難世帯】 地元に残った人々に対する気持ち



④【非避難世帯】 避難した人々に対する気持ち



Ⅵ今後の子どもの避難について

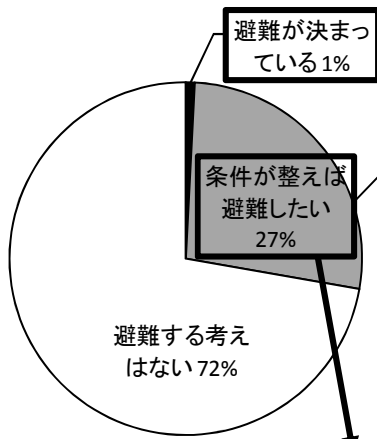
震災直後には本調査対象者の8割が避難したが、現在は避難を考えていない家族が7割を超えた。しかし、避難についての不安を尋ねた自由記述への回答には、「避難する考えはない」を選択しながらも今後の状況次第では再度避難について検討するとの記載があり、状況によっては再度避難者受け入れのニーズが高まる可能性が示唆された。同様に家のローンや仕事、母子避難となることへの不安、親族や友人の反対、家族の意見の不一致などの理由で「現状では困難である」との記載もあり、現在の決定の裏には複雑な思いがあることがうかがえた。

「条件が整えば避難したい」と回答した方に避難を留まる理由を尋ねたところ、経済状況や仕事を挙げた割合が高く、次いで家族一緒に暮らせなくなることや転園転校など人のつながりを断たれることが挙げられた。また住居、就労、

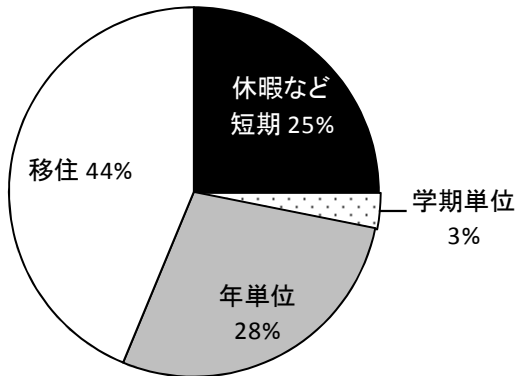
差別など避難先での生活保障への心配も避難を留まる理由に挙げられていた。避難する場合の期間については、移住を考えている家族が最も多かった。

現在避難について実際に誰かに相談をしているのは3割で、相談相手として配偶者や親、友人などが挙げられた。

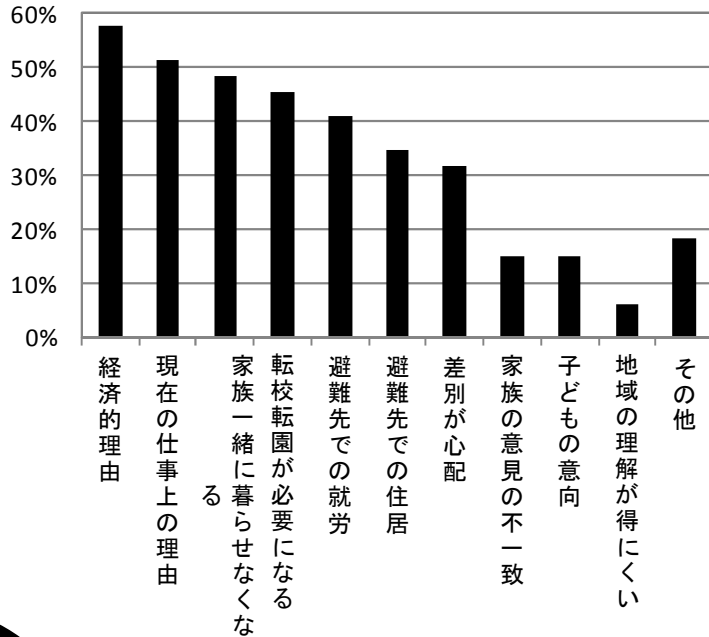
①今後の子どもの避難についての考え



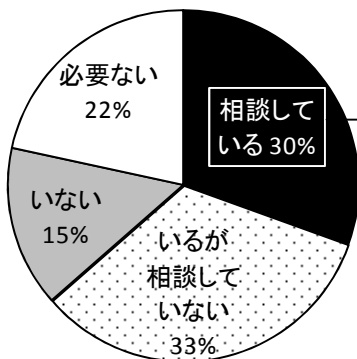
②避難の期間についての考え



③避難をとどまっている理由



④避難について相談できる人がいるか



●相談相手に挙げられた人 (67名中の言及率)

配偶者	48%
親	43%
友人	43%
きょうだい	12%
親戚	4%
同僚	1%

## ⑤今後の避難や移住について不安に感じていること（自由記述回答の内容）

※回答は2011年11月時点での状況から記載された。

- どこまで避難していいのか?安心なのか?経済的不安。日々地震がないのか、原発が心配。内部被ばくの心配。
- 現在の生活地での放射線の不安は十分にあるが、夫と自分だけの判断で移住も避難も決められない事に心の葛藤がある。(夫側の両親の理解)。
- 避難の必要があるならば避難したい。きちんとした情報を伝えてほしい。避難、移住するにしても経済的に無理だし、仕事もなくなる。
- 自分の家があるし、夫の仕事場が「いわき」でやっとうまく行っているので家族全員での避難はできないと思う。避難となれば母子避難となるので、そうなった場合の家族関係がどうになってしまうのかという不安と、1人で全てをこなせるかなどの不安がある。一分でも早く、収束して欲しい。
- 今後の放射線量にもよりますが、避難する場合の、新しい居住先、勤務先、経済面。
- 今後、再度原発で事故があつて状況が変化した場合は、すぐにでも避難したいと思っているが、前回親戚宅にお世話になったが、子連れで何日も滞在するのはお互いに気をつかってとても居づらかった。人間関係、金銭面、家族が離れてしまわないか…
- 子供達の成長に対して放射能の影響は不安だが、移住したとしてもその土地での生活にも不安がある。
- 結局、生活があるので、危険は感じていても避難は難しい。
- 子供の為に、できれば避難はしたいですが、長男で(父親が)本家なので、この土地を離れるわけにいかず、また、経済的にも余欲がないので、ここでくらししていくしかありません。
- 子供のストレス、上の子は小5のため学校の心配(いじめ等)ただ、現状状態であれば全く避難するつもりがない。
- 子どものために移住したいと思うが、父、母共に仕事を辞めてしまったら生活して行けなくなるので移住はできない。
- 本当は避難した方が良いのか…? 知らない土地に避難する事や仕事、収入等も不安で避難した方が良くてはなかなか行動にうつせない。
- 避難先での仕事はあるのか。環境が変わった事で子供がストレスや不安を感じないか。
- 今の状況が悪くなれば避難したい。
- 避難や移住は精神的にも金銭的にも負担が大きい。とにかく、安心して生活できるように、福島で子供が成長していけるようにして欲しい。
- 家のローンがまるまる残った現状でひなんをしても経済的に無理。原発に近い人たちにはいろいろあるだろうがいわきに残ってる人たちにはなにもない。
- 自主避難とされる地域の保障や避難時の住居や生活が不透明。
- 日本全国、地震も、原発もおこりうる状況の中で、避難や移住してもまた、移った先で同じことが起こらないか不安。
- 父親の仕事上避難する事により、家族離れての暮しとなると二重生活となり生活費等の問題がある。祖母との同居もあり、私と子供だけの移住は気まずい。地区ごとの移住先の確保等があれば安心ですが…
- 親族に避難させてほしいとお願いしたら行ってもらいたくないと言われた。
- 原発のことでまだ当分の間おちつかないようであれば、避難することを考えた方が良いのか?
- 主人の仕事や家のローンのことを考えると、避難するという選択肢はありませんでした。
- 避難指示が出たら避難するが、避難は全く決めていない。
- 現状が続くかぎりは今借りのアパートにいる。ということを家族できめました。状況が変われば、(原発や放射能、主人の仕事)すぐに話しあい避難するつもりです。
- もしまた原発の関係で避難となった場合経済的なことが一番不安です。
- 住居の確保が出来るか?(時にインターネットがなければ情報が得られない。ない家は無理?)。父親の仕事が避難(移住)先で見つからない場合、家族離れての二重生活。経済的に困難。子どもに対するいじめや、子ども自身のストレス。(3月に避難した時も身体的症状あり。)
- 放射線の心配はあるが、心配のない場所まで行くにはお金も必要。あまり余裕もないので

難も出来ない。家族と離れてしまうのも、どうなのかと思う。でも、子供が病気になったりはしないのか、常に気にしている…

□ 福島からとの理由で、子供が差別やいじめにあわないか心配。

□ 現況が変わりなければ、特別避難は考えていない。被曝している…という不安はあるが、実際、この地を離れての生活は無理。

□ 差別、心理的に傷つくようなものを他者より言われること。

□ 自営業の為生活の不安。住宅ローンなどの金銭的な事。

□ どこに避難していいのかわからないし、夫の仕事もあるので、家族ばらばらでは生活したくないが、辞めるわけにもいかないし、何の保障もなくは生活出来ない。

□ すべては原発の状況次第。悪化すれば、すぐにどこかに避難します。4月から母は職場復帰。その後に原発が悪化したら、子どもたちだけを避難させることになるので不安。

□ 多分、家には戻れないと思うので、安全な場所、住みやすい地域が見つければ、そこへ移りたいと思う。ただ、主人の仕事があるので、そこから近くの間所となるとなかなか難しい。

□ 家族の関係、お金。

□ 避難も1つの方法ですが、お金の面から考えると両親の仕事や行く先でも生活する訳ですから、最後にひなをえらばなかった人は多いと思います。

□ 原発もまだまだ安心できない。避難するにしても、家を手離しての二重生活は厳しい。

□ 今は状況が落ち着いているが、たまたし避難せざるを得ない状況になっても行くあてもないし、国が無責任なので不安です。

□ 原発の状況次第で避難することも考えています。

□ 避難する事での子供の精神状態への不安。ただこの先、原発で何かあれば迷わず避難をすと思う。

□ 自宅のローンがあるため避難はできないし、精神的苦痛はもうイヤ！！

□ 私は避難したいと思っています。特に女の子2人なので、正直未来が不安です。住む所はありますが、父親の仕事上の理由や転校、転園を考

えるとどまってしまう。迷っています。

□ 今のところ避難や移住は考えていませんが、今後、何らかの変化があつて避難か移住すべき時がきたら、一番どこが安全なのかが…わからない。どこへ行っても不安だと思ふ。

□ 持ち家であるという事。仕事を持っているという事で、移住したいが出来ないのが現状です。家を買取ってくれて、次の仕事の保障があるなら移住したい。

□ いわきは線量が低いとはいえ、通常の2~3倍はある。いつまで今の生活を続けることになるのか先が見えず、不安は尽きない。いわきでも積極的に除染をして欲しい。避難によるメリット、デメリットを天秤にかけると答えを出せない。

□ このままいわき市に住み続けて、子供の将来は大丈夫だろうか。かと言っても、夫だけが残り、子供達と別の場所へとは決断できない。どうしたら一番良いのかが分からない。

□ 3月は大変な時期で避難している人が多かったが、一度戻ってしまうと「再び避難」は難しい。「皆さん普通に暮らしてますよ？」と言われてしまう。

□ 今でも本当にここに住んでいて大丈夫なのか…という不安があり、何度も家族で相談してきました。ですが、避難を決断するためにはいくつもの問題があり、簡単には決断できない状態です。なので結局は現在の線量が0.1mSvほどになっているということで、避難はあきらめています。

□ 移住先の環境、コミュニケーション。

□ 結局、福島・いわきというだけで、差別され、いじめにあうのはたえられない。私達は何もしていないし、何も悪くないのに。お金がない。子供の為に出来る事は何でもしてあげたい。

□ 避難することも考えてはいましたが、今となってはどこに行っても同じだと思います。ホットスポットと呼ばれるところもあるわけですし、いわきのほうが安全と思う時もあります。

□ 悪化するようであれば避難したい。でも、知人などがいない。

□ 避難、移住したいが、そこに行ってから生活に不安がある。が、しかし、このままここにもよいのかそれも不安である。気持ちが矛盾して何も決められない。

□ 原発の報道も少なくなり、実際の所本当に安

全なのか、不安。また、現在の状況で避難・移住した際に保障はどこまで国が対応しているのか、不安。

□ 福島県と言うだけで、放射能がうつるなどと非難をうけて、いじめにあわないかが不安。

□ 避難できるならするが、避難後の生活が不安。残る家族も心配。他県なら必ずしも安全なのか？

□ 家のローンがまるまる残った現状で避難をしても経済的に無理。

□ 悪化するようであれば避難したい…でも、知人などがいない。

□ 原発にまた何かあれば検討・避難。

□ できれば避難したいが、移住先、仕事、人間関係、など考えると決断できない。子供のこれからのこと(健康面など)を考えるとすごく不安。国、県、市は子供があとから病気などになっても、『想定外』だったと言われておしまいだと思うので、親たちが自分の子供を守らないといけなと思うと、どうしていいかわからない。

□ 原発にまた何かあった時、どの時点で避難したらよいかの判断がつかない。

□ なにが本場で、なにがウソか、何もかもに気を使いすぎて、頭がおかしくなりそう。子供を守りたい。毎日が不安でたまらない。ちゅうぶらりんにされている気がします。この先の子供の健康が心配です。

□ 父の仕事が県内であり、収入が減って生活が苦しくなっても避難しようとは思えない。ただ11月現在、最近思えてきたのは、この不安(放射能)が何年も続くと思うと県外で転職できるのなら福島から出ていくのもひとつの手段かとも考えるようになった。原発は100%爆発しないとも言えない。今度起きたときのために逃げる準備もしているが、たぶんその時には行き場は無く、道は混み合い、県内にとどまざるをえないかもしれないも思っている。

□ 子供がなじむのか、いじめにあわないか。母親の具合が悪い時、安心して子供をたのめる人がいないと不安。今まで、親戚に囲まれて過ごしてきたので、避難すると母親と子供だけですごくので、子供も不安やストレスがふえると思う。

□ 現在仮設住宅での生活中。除染は行われているが、本当に戻ってもいいものか。上の子は来

年中学校入学だが、どこに入学させるべきか。

□ メディア、専門家の情報を集め、冷静に判断した上で避難しない事を決断したが、周囲から放射能に対する認識が甘いと思われてたら嫌だなあと思う。

□ いわきに家を作って、ローンははらっているので、移住は考えられない。仕事で、主人がいわきを出ても、私達はいわきに住みます。今、新しい所に行っても、子供達も、慣れるのに時間がかかるし両親もいるので、いわきからは出れないと思います。

□ どこに移住したらいいのか迷う。あまり遠くも、子供は嫌がっている。本当は、ここに残っていたいが、両親の心ストレスが強い。とにかく放射能がなければ…。

□ 線量が身近で測定されるたびに、子どもへの影響が心配ですが、目に見える風景はおだやかで、ふと忘れて普通に生活していることに気が付き、不安になります。再避難も考えるのですが、毎日の生活に追われて後まわしにしてしまうことも不安です。

□ 再び避難することがあればまた母方の祖母宅へ行くことになると思うが、長男が環境になじめず、学校に行けなくなるのではないかと不安に感じます。(4月に転校した時は1年間群馬にいたつもりでしたが、小学校でいじめられたので、夏休み前に戻ることになってしまいました。)

□ 移住先での人間関係(子供の学校や幼稚園など)。主人は仕事上絶対に最後まで避難は無理なので、二重生活になるため、生活費などの金銭面も不安です。

□ 不安の一番の理由は家のローン。二重生活による経済不安。

□ 今、避難しているいわきでも少し不安はあるが移住する気はありません。今より状況が悪くなってしまうかもしれませんが、父親が第2原発で仕事している為、一人残しては移住出来ません。子供達の為に、移住した方がよいのかと思う時もあります。父親と離れて暮らす事が子供達の為によいのか、なにが正解なのか分かりません。

□ 現在、自宅での空間線量は0.18~0.21mSv/hです。5月から現在までほとんど変化はありません。現状では、避難・移住は全く考えていません。もし福島市・郡山市レベルの線量なら、



移住を考えるとします。

□ 子供ばかりではなく家族全員の安全を確保してほしいし、ここがあぶないから避難しましょうではなく、町全体で避難を希望するし、そうしなければ子供を本当に守れません。

□ 避難や移住をして子どものために安全な場所を求めたい気持ちはあるが、環境が変わる事、金銭面等々不安は尽きない。今後も自分の家で安全に暮らしたいのが本当に望む事。

□ 今の平地区の線量ならば避難の必要はないと思う。

□ 警戒区域内で10k圏内の為自分の家でまた生活する事は出来ない為、早く自分が住みたい家へ移りたいがなかなかない状況。広い庭、部屋数が自宅は多かった為、今の2DKの家では子供もストレスを感じてしまう。どこかにまた家を求めたくても自宅のローンの問題もありなかなか考えるのにまだまだ先が見えない。

□ 子供の事を思うと避難したいが生活するのに無理がある。

□ 避難するタイミングがわからない。母が仕事を辞めて子どもと避難するつもりだが、条件のよい仕事に就いているため、ふんざりがつかない。

□ 避難をして、自宅を離れてみて感じたのは、知人、友人、ご近所とのコミュニティが途切れることの重大さ。今の様子であれば避難の必要はないと思いますが、またトラブルがあって、逃げるのはもう嫌です。「逃げる」って。まさか、人生で味わうとは思っていませんでしたし、自分だけ避難するっていうのは後ろめたい。今の状況のまま、そのままそっくり移してくれるならどこへでも行きたい。

□ 親としては子供だけでも避難させたいが、避難する事によって子供のストレスになるようなら、今の場所での生活が良いのか…。どうしてあげるのが一番良いのか正直わからない。早く安心して生活出来る環境にしてもらいたいし、出来る事はしていきたい。

□ できることなら伸び伸びと子供らしい生活を送らせてあげたい。しかし、関東での数値は、現在生活している地域とさほど変わりがないようなので家族がみんなそろって生活をしているが、常に迷いはあります。※夏休みは1か月間北海道へ母と3人で生活(NPO法人主催による)※冬休み

は9才の子のみ北海道へ8日間生活(NPO法人主催)長期休みの場合は、できるだけ福島県外で生活するよう心掛けている。

□ 先祖伝来の住居、土地、現在同居中の祖父母、更に家業を全て放棄して移住するリスクと現状の放射能レベルに起因するリスクを様々な情報を集めながら、比較検討する毎日です。

□ 福島県内よりは県外に子ども達の事を考えると、今すぐにでも移住したいけど主人との意見があわない。色々調べて移住の情報はあるけど経済的な後押しがないとなかなか進まない。これから妊娠したり出産の事を考えると福島では怖いって感じがするから福島を出たいけどでれないのが不安。

□ 避難するしないは自分達がもう少しいわきで出来る事をして、もうこれ以上頑張っても先が見えないと思った時にします。不安に感じているだけでは福島県で住んではいけないと思います。その為に今までも動いて来たし、これからも活動して行くつもりです。

□ 現在、父親の職場が来年の3月までいわき市と決まっているが、4月から職場が変わる予定で、3人家族でありながら単身赴任するようになるか、または幼稚園がまた変わる事を前提に引越すか迷っているし、不安です。

□ 冬になると風向きがいわきの方になると聞いたのですが、その時に、もし避難しなくてはいけない時や、線量が高くなった時に、やはり子供の健康が心配なので、避難したい時に仕事のコトや、避難先の生活のことが、とても不安です。

□ 移住したことで福島から来たという差別がおこらないか心配。

□ 原発の状況が悪化するようであれば避難したい。その情報が国や県・市から早く届くのが心配。

□ 経済面、就労、子供たちの学校、子供たちへのいじめなど。

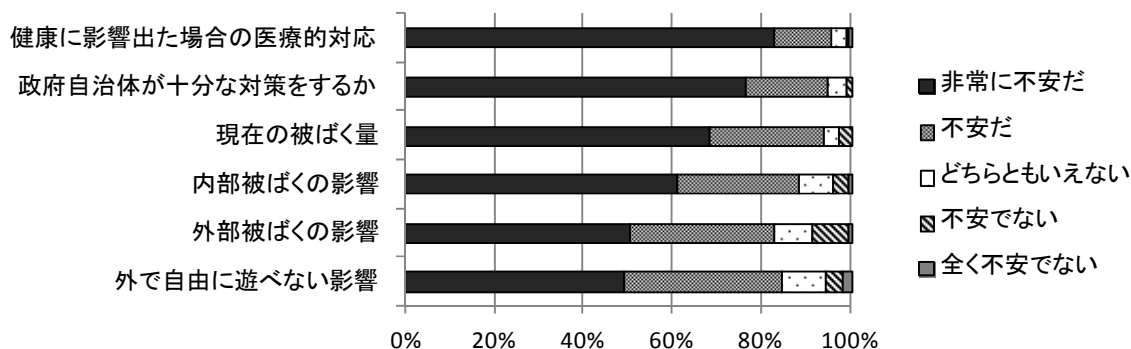
□ 何かあれば避難も考えるが、何の補償もないので避難はむずかしいし、子どもの環境の変化への適応が心配。

□ 移住はしたいが夫に移住の意思が無いため、移住は不可 長い年月の間に子供達への身体的影響や将来、差別の対象にならないか不安である。

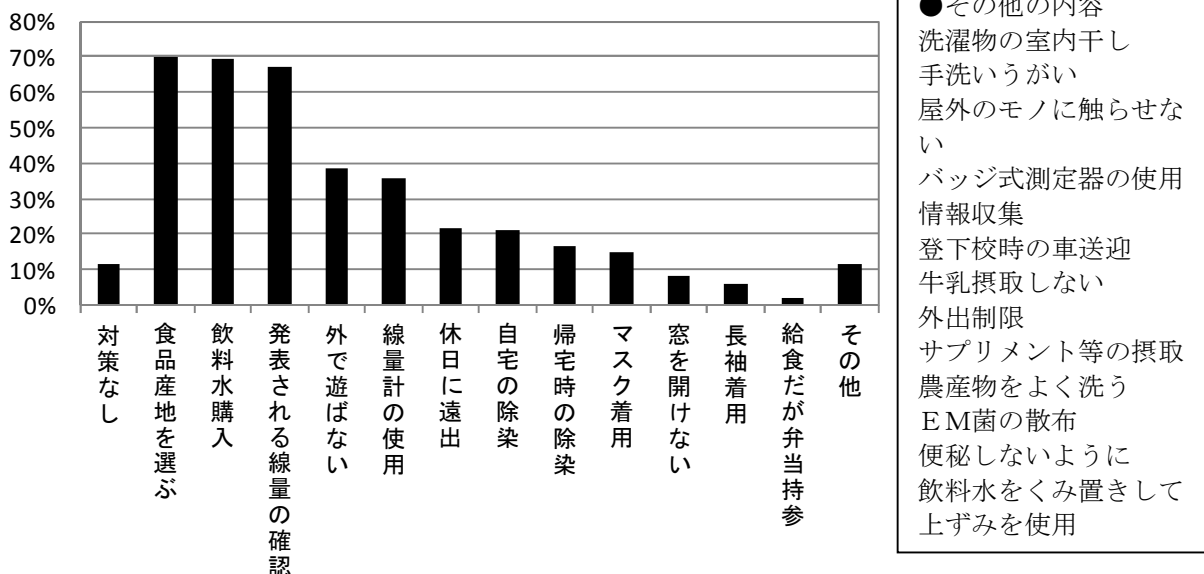
## Ⅶいわきでの生活について

原発事故を起点とした子どもへの影響については、すべての項目で調査対象者の8割以上が不安を感じていた。特に、健康に影響が出た場合の医療的対応や、政府や自治体が十分な対策をするかどうか、現在の被ばく量に関して強い不安がみられた。避難以外の対策としては、食材の産地を選んだり、飲料水を購入したりしている家庭が約7割と最も多かった。これらの対策に伴い毎月の支出が増加しており、特に一時的に避難した際や休日に保養のため遠出する際の支出が負担であるとの記述がみられた。支出の内訳として主に挙げられたのは、①毎月上乗せされている支出；飲料、遠方の食材、電気、ガソリン、マスクなどの購入費、屋内施設の利用料など、②一時的に発生した支出；放射線量測定器、エアコン、衣類（買い替えやナイロン製衣類）、屋内で過ごすための遊具などの購入費など、③実施の都度高額の支出となるもの；避難時の費用、休日等の遠出、自宅の除染や改装にかかる費用などであった。

### ①原発事故による子どもへの影響についての不安



### ②避難以外の対策として現在家庭でしていること



## Ⅷ子どもについて現在不安に感じていること

「子どもについて現在不安に感じていること」についての自由記述に寄せられた回答を掲載する。回答は2011年11月の状況をもとに記述されている。

水や食品の選択、内部被ばく量の測定がなされないこと、子どものストレス、健康への影響、情操面への影響、体力低下、自然とふれあえないこと、情報の信頼性、公共の場の安全性、学校の対応、自治体や国の対応、経済的保障、結婚などにおける差別、親自身や子どもの出産時の影響、放射能に対する子どもの反応や教育、現状がいつまで続くのかなど、さまざまなストレスや不安、心配、葛藤を抱えている状況が記述された。

- 内部被ばくが心配で、近所のスーパーでは遠くのものがなく、食べ物にストレスがあります。宅配も10日に1回位で好きな物は来ないので困ります。幼稚園や外食はあきらめています。自宅の物は気をつけています。できれば家に1つ線量計がほしいです。
- 夜TVや電気をつけていないと怖い。と泣くようになり、毎日つけて寝ている。寝たのを確かめて消すと、必ず気づいて泣いてしまう。
- 現地点で、子どもが、どの程度、被ばくしているのか、不安です…
- 色々な場面で出費がかさんだり、精神的にも不安定になったりしているので、その辺の保障をして欲しい。原発事故と甲状腺ガンとの関係などをはっきりとして欲しい。
- 3月の内はマスクなど外に出さない様にしましたが3才のあそびさかりですので家の中だけではストレスがたまり今は外に出してあそばせています。昨日外のイチョウ並木をはかりましたら、0.45。家の前の草のある所ですぐにその位上ります。不安です。
- 定期的に内部被ばく等の検査をしてもらえるのか？市場に出ている食品は本当に安全なものなのか？
- 安全といわれている食品だが、微量の放射性物質がふくまれているのを食べ続けて影響はないのか？地震の不安は残っているみたいだ。
- 今後、子供はつくれるのか。
- いつまで、つづくのか？放射能が。
- 外遊びが出来ないため身体発育が遅れるのではないのか…。1番は子供の健康障害。
- 健康面。
- これから何年後かに放射能の影響による病気が発症するかもしれない不安。国からの線量計の配布(データ取り)やアンケートで、私達は、モルモットのような気分で毎日過ごしています。
- 近所の子が、よく鼻血を出すようになったと聞くと、自分の子もしばらく高熱を出していなかったのに高熱、ひどいのどの炎症などがあつたり…すぐに影響があるわけではないと思うが、うたがってしまう。将来、体調に影響が出るか、出産時、問題なく五体満足な子が産まれるか。もし、他県の男性と結婚となった場合、周囲から反対されないか…
- 下の子が地震をきっかけに、甘えるようになった。特に夜が不安になる。
- 放射能に対しての知識など。
- 国や、東電は全てのデータを隠さず、公表してほしい。一部地域のデータでなく、近くのデータも集めて公表するべきだ。幼稚園だけが生活環境ではない！！
- 子供が継続して、放射線にさらされていて心配です。食べ物や、飲み物からの内部被曝が目に見えないので、不安のまま、生活している状態です。
- 外遊びが自由にできず、ストレスがたまっているような気がします。
- 放射能は怖い物である。が、普通に日常生活を送らせてあげたい。放射能についての理



解のさせ方に不安がある。どう説明してよいのか…やみくもに恐がるばかりでなく、理解して生活してほしいと思っているが…

□ いわき市は、原発からの距離が近いわりに線量が低いこともあり、市の対応が遅い。住民の危機感にも大きな差がある。それは幼稚園も同じで、給食の食材の産地は公表されず、線量も週に一度しか知らされないなど、不安や不満を感じる人が多い。そして、子供たちが現在どのくらい被曝しているのか、一番気になります。学校や、幼稚園によって、対策の仕方が大きく異なるし、公園等の除染はされず、困っています。

□ どのくらい被ばくしているのか心配なので、早く検査ができるようにしてほしい。

□ 子供の内部被ばくが心配。学校の放射能が0.6なのに、何もできないもどかしさ。何も対応してもらえない。不安な生活をしています。

□ いわき市地区は、いつ内部被ばくの検査を受けられるのか、もし被ばくしていた場合、それ以降の治療方法や費用はどうなっているのか発表されている毎日の放射能の線量は正確な数値なのか！

□ 健康面はもちろん心配ですが、子供達が成長し、進学や就職、結婚などの際に差別をうけないか心配です。また、子供達が住むこの町この福島の発展を望みます。

□ 体力の低下、自然とふれあえる環境でない。

□ 市、行政の対応が遅い(除染や健診の対応、食の安全)。体力の低下。行動制限による、ストレス。

□ 甲状腺の検査はいつするのか？はっきり決まってないので、不安です。線量計も、もっと早い段階で配るべきだと思う。

□ 3月の雨(事故後)にうたれ、ずぶぬれにさせてしまったこと、公園の砂を下の子が口にしていたのですが、どのくらい被曝させてしまったか非常に不安。(全て3~4月東京にて。)

□ 子供に対する食(内部被曝)は心配だが、合わせて農家の方も心配。

□ いわきは安全だとの発表の為移住こそしていませんが、どこまで安全なのかわからない。報道等でもいろんな意見がありどれを信

じてよいのかわからない。

□ 放射能は今後どれくらいの期間、いつもより高い状態が続くのか？

□ いわき市は、子供の為に何もしてくれない。(除染とか)学校とかはしたが、道路など線量が高いかどうか、調べてほしい。同じ福島県なのに、いわきは何をしているのかわからない。内部被ばくの検査をしてほしい。

□ 線量が比較的低いということで、いわき市では除染はしないと聞きました。せめて公園とか、子供たちが利用する所の除染をして欲しいと思います。

□ 放射能による健康への影響、内部被ばく。

□ 心理的に不安定な為一緒にいないと怖がったり親としても子供たちだけ残して少し外出が全くできなくなりました。これから以前のように戻れるか心配です。

□ 将来の事が、1番です。女の子なので出産した時にちゃんと子供が生まれるか。震災時、遠くに行った方々の話を聞くと「いわきナンバーだけで石を投げられた」「いわきの嫁をもらうな」など聞きます。私達親からすれば、なりたくてなったわけでもない事であり、この子供達の健康、将来が本当に不安です。

□ 校庭の除染をしてほしい。0.3マイクロシーベルトから入れ替えするとの事ですが、上の子の学校では0.28なので入れ替えはしていない。蓄積されて、将来病気になりはしないか心配。以前は外で元気に遊ばせていたが、気になるので少ししか遊ばせられない…。花のみつを吸ったり、落ち葉ひろい、山や海、今までの事が出来なくなって、子供達がかわいそう。外遊びを自由に出来なくなった子供達は、将来影響はないのか…

□ たまにノドが痛い甲状腺のあたりに手をあてる。

□ 将来的に、福島県外へ出た時にも、保障(健康面など)してもらえるか？私はいわき市在住であり、原発からの謝罪や、保障など一切ないため、実際問題原発問題が原因で生活が苦しくなっても、自力で対処していかなければならないことがとても不安。子供の教育費捻出がむずかしくなったり、子供に使えるお金がなくなったり、現時点で、収入減による影響

は多い。

- 地震や津波、放射能に対する恐怖心。
- 福島でずっと育って大人になって、他県へ出た後、他県の方と結婚等の話が出たりするとき、また風評被害のようなものがでそう…。いじめみたいなのがないか不安。
- 将来、健康に被害がないかどうかという事。
- 内部被ばくの健康調査が始まったらしいが、いわき市の子供たちは、いつ頃検査できるのか。早ければ早い方が皆安心はすると思うのですが、もっと県内外の医療機関等を利用したり、各市町村1台ずつでも購入する等の配慮があっても良いと思います。福島県の父母は、皆子供の将来に不安を感じています。
- 未だ地震ごっこをしたりする事がありますが、実際に地震が起こると怖がります。部屋中に、おもちゃを散乱させ、「津波がきたんだよ」と。震災後のテレビの映像、自分の目で見た光景が焼きついているのでしょうか？ずっと忘れないのでしょうか？これから先、何かトラウマになってしまうのではないかと不安です。
- 本当にこの地に住んでいて、何の害もないのか。
- 外遊びは、できるだけ控えさせているが、男の子なので、やはり、外遊びがしたいらしく、その度に、虫や砂などをさわったりしてしまうので、あんまりさわると言うのがかわいそう。思いっきり遊べないストレスがある。
- 3/12以降からいままでの内部被ばく量がどのくらいなのか気になる。今現在の線量のままいわきに住んでいて将来的に問題はないのか…。
- 避難してすぐ体育館での不安な生活、次の避難先の親せきの家に2回お世話になりましたが、精神的に疲れていたようで、毎日夜泣きが続きました。今はなくなりましたが、あの時のショック、身知らぬ人との生活は後々、小さな心にどのように影響していくのか心配です。おじ、お婆からの冷たい言葉も多分心のどこかに残っているような気がします。かわいそうでした。
- 子供の将来、放射能の影響による、病気に

ならないかと日々心配です。

- 体力低下、人間関係。
- なぜ子供たち全員の検査（被ばく）を調査をしないでこんなくだらないアンケートをするのか不安でならない。
- 原発の安全性が不明、風評被害は強いし、実際に原発の影響も受けているのに、いわき市民は、何の保障もない。結婚して、子どもを出産することが出来るのかが不安。実際に、関東の友達に、息子が彼女を連れてきたら、どこの出身なのか確認してしまうと言われた。
- 子供達が内部被ばくしてないとの証明が欲しい。検査を身近な所でやってる所がない。
- うち全然食べ物も何も気にしていないが、とても気にしている家庭との差が激しいので、自分の行動が間違っているのか、たまに疑問に思うし、子供にとって将来的にどう出るのか考えると不安です。
- 他の県や地区に比べて、市民団体や保護者たちによる細かい線量測定が行われていないので、ホットスポットがあるのではないかと不安です。それから、ホールボディカウンターやバッチ式測定器を考えているが、調査結果があいまいだとか、わかりづらいと周囲の母親たちが言っていたので、私たち一搬人がわかりやすい解説をお願いしたいです。
- これからの健康。福島に住んでいて子供達にとって幸せなのか。将来。
- いわき市は、ヨウ素の飛散がとても多かったと文部科学省の方でも言っていたので今後の甲状腺被曝を心配している。成長ホルモンへの影響もあると言う事なので注意深く見守って行きたい。小学校へ入学してからの給食（牛乳や米）の心配や不安があるのでもっと細かい数値で検査をしてほしい。
- いまだに線量計も配られない。いわきは対応がおそい。市長、教育委員会もあてにならないから、給食も福島のものをつかうんだ。牛乳なんて飲ませられない。自分の子供に食べさせてみろと思う。
- すべて不安。実験に使われているのではないかととも思う。
- 中学校では、放射能がどのくらいなのか、公表してくれていないのに、外での部活を(制

限なし) 普通にしているの、すごく心配。

□ 内部被ばくの検査はいつになるのか。何かしら不安な日々はいつまで続くのか。

□ 食料の安全性。少しでもセシウムが出ているものは、この先 80 年近く生きる子供達には食べさせたくない。1つ1つは微量でも、つもりつもれば多くなる。いくら、排泄されるとはいえ、どのくらい出て、どのくらいのことっているのか分からない。1 番不安なのは、食べ物に関する事です。

□ 全身検査してほしい。定期的に検査を継続してほしい。内部ひばく量、甲状腺の検査は、大至急してほしい。

□ 公共の場所等の草むら、下水、土じょうの除染をしてほしい。

□ 内部被ばく調査を早くしてほしい。市内数ヶ所でも公園を除染し、外遊びができるようにしてほしい。

□ いわき市は低線量とはいえ、今後、体は大丈夫か。外で遊ばせない為、体力は？本当は子供にとって外遊びが大切（心にも体にも）なのに…。

□ 外あそびをほとんどしていないため、運動能力がおちないかどうか不安に感じています。

□ いわき市長を何とかしてください…市民に保障をして下さい！

□ 幼稚園で砂遊びをしていること。

□ 大人より内部被ばくの影響が高いと聞いたので（子供が）とても心配です。

□ 成長にあたって震災の体験がどれくらいひきずるものかどうか、メンタル面での不安。

□ 内部被ばくをしていないか、もし、何か病気になった時の費用や対策を今からきちんと説明してほしい。

□ いろんな所をさわった指で、つかみ、物を食べ、おちたのもたまたま食べてしまうので心配です。

□ 将来の体に対する影響、元気にすくすく成長することができるのか…とても不安。

□ 震災後、原発の影響かどうかはわからないが、体調が不安定になり、医療機関にかかることが多くなった。また「地震」という言葉に敏感に反応するようになりとても恐がる。また将来原発の影響がでたとき保障はどうな

るのか、不安。

□ 外での運動は大丈夫なのかが不安。野球での土けむりやサッカーの土けむりなど大丈夫なのか？

□ まだ小さい為、マスク着用や線量計の着用などが出来ない。大きくなれば対策もまた変わってくるが、乳幼児への対策がもっと何かないかと思う。自然とのふれあいが大事な年に、何もできないのがかわいそう。成長に不安がある。

□ 体力の低下。自然とふれあえる環境でないこと。

□ いろんな所をさわった指をしゃぶるので、心配です。

□ 子供の放射能の影響が心配。

□ 放射能はとってもこわいと分かっているのですが、仕事上などで移住する事も出来ないで子どもがかわいそうと言う気持ちがあります。もしガンになったらどのように対処してくれるのか…

□ 一番は原発問題が、今後どうなるかがすごく不安です。自分の子供は自分で守らないといけないので、すごく悩みます。国、県、市の「大丈夫」は信じられないので本当に、子供にどのぐらいの影響があるのか教えてほしいです。

□ 「がんばっぺ福島」を応援しながら、県内産の野菜は買わない矛盾。食べさせたい野菜や果物は、スーパーでは県内産の物ばかり。片寄った野菜ばかりで栄養面でも不安です。子供がいる家庭では、きっとすべてにおいて不安です。外で思いきり遊べない。自然と触れ合う体験をさせてあげたいです。

□ 子供はぜんそくをもっていて、ベットなどのホテルにとまれません。なので、泊まる時は、たたみの部屋になってしまうので、料金が高くなります。もうこれ以上旅行はできなくなりました。どうやって少しでもはなれて体を守ってあげれるか、不安です。

□ 数年後起こるかもしれない病気（甲状腺とか）。外で気持ちよくあそべないために起こる精神的問題。結婚したくても差別にあうかもしれない不安。通勤族なので、これからどこに行くのかの不安。（いわきは安全な方だ

と思う。他地域への心配が尽きない)

□ いわき市は、市長をはじめ、対策を何もしていません。子供達への対策がない。データは集めるが、対策がない。学校もやっていなければ、ここにはいない。どうしてはじめたのでしょうか。車で学校に送り向かえをしていました。なるべく歩いて登校させてほしいと学校より連絡ありましたが、道は除染していないし、遠い。せめてスクールバスを出してほしい。福島県も、国も、おかしい。

□ 福島県内では線量計がふりきれ程高い場所がたくさんあるのに、東京都内のラジウムなどで大ききわぎをしていて、都会と福島県の温度差を感じます。自治体まかせではなく、国の力でもっといろいろ助けてほしいと思う。

□ 将来に関する不安（健康の影響・就職や縁談時の差別）。子供だけではなく、次の世代孫、ひ孫、もしくはそれ以上の子孫への健康被害。子供が小さいので、成人する前に親の健康に影響が出た場合への不安。

□ 子供が将来、結婚・出産するにあたり放射能の影響で人生を左右されるような事がないように一日も早い事故の収束と人々の記憶から忘れられることを望みます。

□ 市内の公園で遊ぶことができない。

□ 近場で思いきり、外遊び、土遊び、自然に触れられないのが、小さい子供の為になってないのが不安です。

□ 不安ではありませんが、この震災を通して子どもの成長を見ることができました。私たち家族は大きな被害もありませんでしたが、避難してきた（子どもの幼稚園の）お友達が身近にいるということで改めてここで起きたと感ずます。

□ 「放射線がでてるからさわらない」というセリフを子どもが言うたび、いやな気分がします。栗ひろいも、木の実をとって食べることも、森の中を散歩することも、去年はとてよろこんでいたのに。悲しいです。わざわざ転じて、喜びにできる子、みつげられる子、になってほしいです。

□ 2人とも女の子なので将来、差別がないことを願う。

□ 内部被曝について、いわき市は比較的数値

が低いので、公的な除染や検査などが遅れている…というかほとんどされてないと思います。低い数値でも、いわき市から原発までの距離は近く、再び事故が起きたら…という不安はいつもあります。

□ 福島県のこの状況に、幼稚園児でさえよく理解し、我慢していることが多いと思う。周りの人たちの支えもあり、子ども達に不自由がないようにしているつもりではあるけれども、外遊びなど今までできていたことが自由にできないなど、制約が多いことが子ども達に与える影響や、将来、福島の子供ということ、嫌な思いをすることもあるかもしれないという不安があります。

□ 学校の対応が非常に不安。対応が全くなく、放射能は大丈夫ということ基準にしていることが全ての不安のもと。学校での田植え（5月）、稲刈（10月）、給食、牛乳の福島産問題（4月末）、表土（校庭）に関して、子供を守りたくても学校に行かせると守れないという矛盾。

□ この先の学校の事。

□ 長期の低線量被曝の身体への影響が心配です。

□ 国はもっとしっかりと市民、国民のことを考えて欲しい。

□ 目に見えない放射能の影響。今本当にこの場所に住んでいて良いのか、政府にはホールボディカウンターでの迅速な測定を望みます。

□ 今後子供たちは、どうなってしまうのだろうか？（体）。結婚する時に断られるのではないのか、何を食べさせたらいいのか、不安はつきません。

□ 外遊びが少なくなってる為健康面で体が弱くなったりしないか。

□ 避難中の線量が高い事。知らずに土地の食べ物を食べさせた事。これから先、いわき市より線量の高い地域での生活（父親の転勤による）。子供の身体の健康と心の健康。

□ 今は3歳なので外遊びなども親が見ているが、小学生になってもこの状況が続くのはつらい。外での体育、プールは不安。

□ 現在は幼稚園生で、給食は、安心できる食材に気を遣っていただいています、今後、



学校給食は長期的に安全性を検査し、産地を選んでくれるのか、風評も大事ですが、子供たちの食生活だけは守ってほしい。現在、いわき市には、いろんな方々が混在しています。相双地区より避難されている方、原発へ作業へむかうバスもみかけます。人口が増え、渋滞し、どこへ行くにも混雑しています。廃炉に30年?!気が遠くなります。

□ 将来健康に影響が出てしまった時、「何で避難しなかったのか」と後悔するのでは…子供に責められるのでは…と思う事がある。将来結婚する時に、相手に「福島出身」で嫌がられたりしないか…と思う。

□ 色々と制限されたなかでの子育ては、きゅうくつで、子供に対して申し訳なく思う。せっかく自然豊かな土地なのに、思いきり外で遊ばせてあげられない事で、心体の成長に影響しないか心配。

□ 外での遊びを制限しているので(1日30分位)、成長した時に体力的、身体的能力がおとろえてしまうのではないかと?幼い子供までもが放射能についての言葉を用いるのは異常だと思う。一番の心配は、外部被ばく+内部被ばくにより、この不安を一生負わせていくのか…ということ。健康でいて欲しい。

□ 被曝による身体的影響。外での活動が制限されることからの身体・精神的影響。情緒の発達への影響。福島出身ということへの差別。治安の悪化による影響。

□ チェルノブイリで何年後かにガンや白血病になったのが増えたと聞いたのでこれからどうなるかが心配。ひばく検査の結果が(これからうけるので)気になるし、もし悪かったと思うと不安。

□ 避難前に通っていた幼稚園、避難先で1カ月通った保育園、そして現在の幼稚園に至っていて、うまく順応しているものの、父親の転勤(あるいは単身赴任)によって子供にかかる不安が出ると思うこと。

□ 大人になって、「福島県出身」が恋愛や結婚の時に差別や障害にならないかが不安。

□ 子供がこれから安心できる環境で育っていくことが出来るかが不安。

□ 健康に影響が出ていないか不安。

□ 内部被ばくについての検査の方法など具体的な案内が全くない、どうしたらいいのかわからない。

□ 原発で子供にどれだけ影響するのかまったくわからない。でも、ここにいるしかない。地元の野菜がたべたい。でも日本と世界ではまったく基準がちがう。本当に安心?何をすることも講演を聞いてもそれぞれいってる事がちがう。どれを信じれば良いのかわからない。本当に子供の健康がものすごく心配です。いろいろ情報を聞いて子供達に良い物をなるべく選択してすごしてあげたいです。

□ 下の子が自閉症なので、いざ避難の時、避難所にはいられないので不安になります。なので知人宅に行き、ギリギリまで自宅にいました。

□ いわきの放射線量は比較的低いのですが、そのせいか周囲の意識も“気にしない”“大丈夫”といった感じがあり、温度差を感じます。放射能に的としての知識もなくむやみに怖がっていてもいけません。地域で子供たちを守るため除染をしたり、学んだりしていきたいと思いますが、“温度差”によってこうした声が消されてしまうのがつらいです…。

□ いわきは風評被害対策がメインであり、子供たちの安全が後回しであること(除染などにも消極的)。外に思う存分出れない事で、今後精神的な影響が出てしまうのではないかと。内部被曝が心配。結婚の際に差別されてしまうのでは。

□ とにかく対応がおそい。(国、県、市、東電)情報で何を信じていいのかわからなくなる時がある。体裁だけの調査や診断ではなく、今後長期に渡る実のある放射能対策、健康へのサポート、支援を求めたい。子供達に福島の再生を託し、地元に残る選択をした私達が正しいのかどうか、現状を見る限り不安である。

## おわりに

現在福島で子育てをされているご家庭が早急な対策として求めているのは、除染やきめ細かい線量値の発表、内部被ばく量の測定、経済的保障などの具体的対応です。国や自治体および民間による支援が求められています。

本調査ではそれだけでなく、中長期的な視野に立った心理社会的支援が必要であろうことが示唆されました。自由記述では特に、差別に対する不安、避難や生活についての選択をめぐる葛藤、社会に対する不信感などが記述され、親御さんが置かれている事態の複雑さが示される結果となりました。福島の子育て家庭が抱える不安は、非常に長い時間軸の上であり、長期的な見通しに立ってニーズを把握していく必要があります。現状として生活に落ち着きが見られるようになったとしても、水面下には親御さんたちの不安があり、親御さん自身が不安を感じないよう、子どもたちに不安を与えないような意識的な努力をされていることに目を向ける必要があるでしょう。

いただいた貴重なご意見をもとに社会に向けて提言を行っていくとともに、福島で子育てをされている方々との対話を続けていきたいと考えております。調査にご協力いただいた幼稚園保育園の先生方、回答を寄せてくださった皆様に、心より御礼申し上げます。

【本調査に関する問い合わせ先】

白神晃子（早稲田大学）

akikoshiraga@gmail.com